

三浦市町立上宮田小学校

研究テーマ：自他の良さに気づき、考え、行動できる子～学び合い活動を通じた思考力の育成～

1 実践の目的

本校の教育目標は、「自立・貢献」である。この教育目標には、子どもたちには、たくましく生きぬく「自立」の力と、他者や社会に「貢献」する心と力をもってほしいという願いがこめられている。この教育目標の具現化に向け、目指す児童像として、以下の2つを掲げている。

- ・自分を好きになり、自分を高める子
 - ・ほかの人を認め、ほかの人を大切にする子
- しかし、実態としては、他者の言動を受容できなかったり、主体的に自分から考えて行動するのではなく、受動的になり、他者からの働きかけを待つ姿が見られたりするという課題があった。

これらの課題を解決するために、児童の思考力を育成しようと、上記のテーマを設定した。

2 実践の内容

(1) 校内研究について

児童の思考力を育成するために、算数の時間を中心に、学び合い活動を行ってきた。その中で、自発的に学習に取り組むことができるよう、場の設定を工夫しながら取り組んだ。学び合い活動では、個の時間を十分に確保してから、みんなで共有をする時間を設けた。そのため、自分の考えを言葉で伝えるだけでなく、他者の意見を聞き、様々な考えに触れることができ、学びを深めることができたように感じる。

授業研究会では、低中高の3ブロックから1人ずつが代表者として研究授業を公開した。その際、各学年部で事前に検討・協議を行い、意見を出し合った。その後全教員で、指導案検討を行う全体会を設けた。事前に学年部で検討をすることで、それぞれの発達段階においてどのような指導や活動が有効なのかを協議することができ、より有意義な全体会へと繋げることができた。

また、代表者以外も1度は研究授業を行い、学年部内でお互いに参観をした。各学年部で指導案を検討し、お互いに授業を見合うことで、様々な視点で授業づくりをすることができた。

(2) 研修について

研究授業の指導案検討と協議会に、神奈川県教育委員会の指導主事を講師として招聘した。年間を通して、算数の授業づくりや協議会の在り方等について、継続的に助言を受けることができた。

また、夏休みには、横浜国立大学の池田敏和教授に『対話を通じた創造的な学びを育む算数教育』について、ご講演いただいた。

3 実践の成果と課題

算数の授業を中心に、日々の授業や学級経営等で、テーマの達成に向けて意識して取り組んだ結果、少しずつ児童が主体的に学習に取り組み、自分から進んで考えたり、友だちの意見に対して自分の考えを伝えたりする姿が多く見られた。日々の積み重ね

が、児童の思考力の育成に繋がっているのだと思う。また、学び合い活動を、算数で活用するだけでなく、他教科や学校生活と関連させることで、教員も児童の思考力の育成について、意識が高まったように感じる。授業について全教員で話し合うための時間の確保は容易ではなかったが、年間で3本の授業について、事前に学年部での指導案検討の後、全体での指導案検討会と授業後の協議会を研究全体会として開催した。その結果、思考力を育成するための算数の授業づくりについて、協議をしながら学び、よりよい授業へと繋げることができた。



1年生の研究授業の板書



1年生の研究授業の様子

また、この場に継続して助言して下さった指導主事の存在は大きかった。本校の児童の実態と教員の思いを汲み、寄り添いながら指導して下さったおかげで、教員も楽しみながら算数の授業について考えることができた。

さらに、代表者だけでなく、基本的に全教員が指導案を書き、学年部で指導案検討を行い、授業を見合った。指導案には、一人ひとりが考える“学び合い”とは何かを書くため、教員も様々な考えを知り、視野が広がったように思う。また、授業も見合うだけでなく、成果と課題も出すことで、教員の授業づくりに対する意識も高めることができた。

4 今後の展開

思考力の育成のため、算数の授業を中心に学び合いを活用することで、児童は自分の考えをもち、主体的に取り組むようになっていった。また、他教科でも、他者の意見に耳を傾け、様々な考えに触れようとする姿が多くなったように感じる。これらが、少しずつ児童の思考力の育成に繋がっていることを期待している。

今年度の研究を振り返る中で、子どもたちの思考力は、少しずつであるが高まったように思う。だが、思考力の育成だけを目指にすると、子どもにつけさせたい力のイメージが曖昧になってしまったように感じた。そこで、校内研究の進め方や仮説について話し合ったところ、思考力を育成するためには、まずどんな考え方があるのかを知り、その土台づくりをするべきだと考えた。以上のことから、来年度も思考力を育成することには変わりはないが、特に思考力の中の思考スキルについて焦点を当てていきたいと思う。思考スキルは、意識していないが日常的に使っているものである。まずは、教員が思考スキルについて知り、理解する必要がある。その上で、児童にどんな時に、どんな思考スキルを使うと考えやすくなるか、学びを深めることに繋がるかを価値つけていきたい。それが、主体的に学習に取り組むきっかけとなり、思考力の育成に繋がるだろう。

来年度も、全員が同じ方向性で研究を進めていけるよう、研究授業を実施するだけでなく、思考スキルについての研修会等を行い、授業力の向上に努める機会としたい。

今年度、研究に対して前向きに、協力しながら取り組み、1年間進めることができた。この雰囲気、来年度以降も全員で楽しく研究を進めたいと思う。